



毎月十五日発行 行所 社会 宗像 大像 宗像 福間宗像郡安原町 電話 0946 1311 代 定価 一年送料共 1000円

神具 装束 結婚式用品 九州店 福岡市博多区東園一丁目(一)三三三 電話 092 333555 本社 京都市下京区油小路六条北入(一)五〇六 電話 東京(03) 三四三三三三 三三四三三三 三三四三三三 三三四三三三

### 猛暑の中古儀に則り罪・穢を祓う神事

## 大祓式・夏越祭厳粛に斎行さる

——全国の崇敬者から四万五千体の人形が寄せられる——



当大社恒例の大祓式・夏越神事は、七月三十一日午後五時、夏夏日の夕陽真さす御本殿神門前に於いて、古儀に則り厳かに斎行された。当日、定刻、葦津宮司以下神職・巫女・職員・氏子総代・崇敬者一同約二百名は、神門前に設けられた大茅輪の前に列立した。この大茅輪は、直経約四メートルにも及ぶ巨大なもので、地元田島校区の総代並び同協力会員の人手の奉仕によって、年々減少しつつある茅を夏夏日の真中汗まみれになって刈り集め丹精こめて奉製されたものである。

### 永遠の理想「自由・平和・平等」

「自由」「平和」「平等」がいついかなる時代にも、人類の永遠の理想である。それは、人類の歴史を通じて、常に世界から騒ぎを受けることまで来てしまった。その直接の原因は、「民主主義」の誤用である。「自由」の意味を「平等」として用いた。「自由」の意味を「平等」として用いた。「自由」の意味を「平等」として用いた。...

先に配布された切麻(キリスサ)で、各自が身体を拭き、次に被物の白布が順次廻され、各々息を吹きかけて、布を切り裂き心身の穢をこの被物に託した。...

### 「御礼」

当大社恒例の夏越祭神事斎行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並に全国崇敬者の皆様より、多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に斎行致すことが出来ました。ここに誌上をもちまして謹んで御礼申し上げます。 昭和五十八年盛夏 宗像大社 宮司 葦津嘉之

### 第二五回 宗像大社歌会詠草

Table with 4 columns: Name, Location, Poem, and Author. Includes entries for 原町 塩川ハルコ, 大島 大島勝代, 大島 豊福, etc.



# 第二十八回 宗像大社中津宮 七夕揮毫会盛大に開催

—— 三百五十余名の豆書道家参加  
真夏の太島で一心に筆を走らす ——

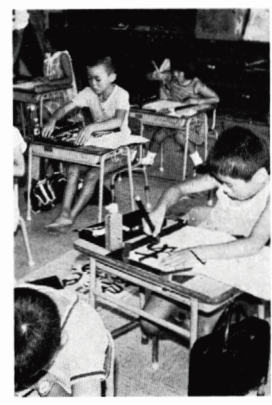


去る七月二十二日、中津宮鎮座の大島に於いて、第二十八回宗像大社中津宮七夕揮毫会が、宗像市・郡内外の小学生約三百五十名参加の下、大島中学校で開催された。

梅雨の明けが心配されたが、当日はからりと晴れあがり、青い空が、輝く太陽が、大島中津宮の鎮守の森でセミの合唱が始まる。この年も、暑い夏は来た。揮毫会場の大島中学校の教室では、暑さで身体中汗まみれながらも一心に筆を走らせる豆書道家たち、見事な作品が出来上った。

福岡県知事賞を始め、各賞に輝いた入賞者は、審査員の先生方のおほめの言葉もさることながら、村添の父兄の顔が、我子の晴れ姿を喜ぶ愛染がほほえましかった。

中でも、福岡県教育委員 会賞に輝いた「吉村ひろみ



吉村ひろみ (河東小2) の作品

【宗像大社中津宮】 吉村ひろみ (河東小2) 実行由佳 (城山中3) 吉田陽子 (日の里小4) 【福岡県議会議長賞】 高田真子 (津屋崎小1) 広田美実 (大島小4) 【福岡県教育委員賞】 百武弘子 (津屋崎中2) 吉村ひろみ (新宮小1) 【宗像大社宮司賞】 立部祐子 (玄海小2) 堂園由美子 (河東小5) 【宗像市長賞】 石松ひとみ (城山中1) 松島志穂 (東郷小3) 【宗像郡町村長会長賞】 広渡由美 (日の里小3) 永野千景 (福の里小2) 【宗像郡議会議長賞】 岡田里美 (城山中3)

【書道会賞】 永島妙子 (勝浦小3) 平川由美 (津屋崎小4) 下田ふさよ (河東小5) 川手紀世美 (河東小6) 神谷圭子 (城山中1) 萩尾直美 (城山中2) 以上九名

【ヒロガネ賞】 あおやきなほ (津屋崎小1) たばたと (津屋崎小1) 原かよこ (大島小2) 上田美保 (津屋崎小2) 井木敏明 (福岡小3) 吉田あい (福岡小4) 城野純子 (福岡南小4) 中野正和 (玄海小4) 山本絵理 (赤間小5) 井手美由希 (自由ヶ丘小5) 北園力 (赤間小6) 山崎明子 (自由ヶ丘小6) 麻生恵 (中央中1) 中村憲志 (城山中2) 中野仁美 (玄海中3) 以上十五名

【金賞】 またけい (赤間小1) 山本れいこ (赤間小1) やまとゆかり (吉武小1) 宮本梢 (大島小2) 川口たか

当社では、去る四月から交通安全講を設立し、順次崇敬者各位に入講の御案内を差上げています。

講というのは、古くは神仏に参詣するために出来た団体のことで、伊勢講とか稲荷講等、色々な名称の講が各社寺で運営されている。

当社にも古くから数々の講があり、芳徳講は、酒造業関係者の集りとして、弁天講は開運、商業繁栄を祈願する人々の集りとして現在に於いて賑わいをみせている。

一方、交通安全祈願申込みの各位から、永代祈願、毎日祈願、特別祈願等の要望があり、これに応え且又、長期に亘る格別な祈願は、特別に厳修すべく、ここに交通安全講を新に設立した次第である。

名称については、交通安全友の会等現代的馴染み易い案もあったが、歴史的伝統を踏まえて交通安全講と称することに決定した。大所の御理解をお願いする次第である。さて、宗像大社交通安全講の要項は左の通りである。

●本講は、宗像大社交通安全講と称します。

●本講は、古代より特に御神名を道主貫(みちぬし)の御名と称えまつる宗像大神を敬仰し、日夜講員の交

交通安全、業務繁栄・家内安全を祈りその広大無垠な御神徳をこうむることを目的とします。

●講員には特別祈願の御神札と講員証のステッカーをさしあげます。

●毎年四月一日を交通安全講社大祭とし、講員各位に同大祭の御案内を致します。

●講員の御住所・御芳名を特別名簿に浄書して大社に保存し、毎朝御本殿にて講員各位並びに御家族の安全祈願を行います。

●講員は、講費として年額個人参千円、法人壹万円を奉納するものとします。

●講費は、交通安全祈願祭の執行、講社の運営費、並びに安全運転の呼びかけ等を御送付申上げます。

以上、以上の通りであるが、この他大社では講員各位に数々の特典を検討しており、各位に奮って入講して頂くようお願い申し上げます。

当分の間、当社に祈願をされた方々に御礼を兼ねて入講の御案内を差上げています。

本講は宗像大神を遠くに在りて拝むのではなく、各位が宗像大神の近くに参上して、燦々と降り注ぐ陽光を浴びる様に、宗像大神の御神徳をいただくことを目的として、

入講御希望の方は、電話又はハガキにて住所、氏名、電話番号を明記して申込みのこと、直ちに入講案内書を御送付申上げます。



## 宗像大社 交通安全講を設立 奮って御入講を!

# 残暑御見舞申し上げます

<p>みなとタクシー 株式会社</p> <p>代表取締役 古野 浩</p> <p>宗像市 大字 土穴</p> <p>宗像営業所 (0940) ① 一三三</p> <p>玄海営業所 (0940) ② 二二二</p>	<p>新星交通有限会社</p> <p>代表 森 義 久</p> <p>宗像市 大字 東郷</p> <p>東郷営業所 (0940) ⑥ 二一三八</p> <p>赤間営業所 (0940) ② 三三三八</p> <p>神湊営業所 (0940) ② 〇〇一〇</p>	<p>宗像西鉄タクシー 株式会社</p> <p>代表取締役 筑 紫 稔</p> <p>支配人 熊 谷 実</p> <p>宗像市自由ヶ丘二一七三</p> <p>TEL (0940) ② 四一三三</p>	<p>宗像グリーンタクシー 有限会社</p> <p>代表 山 根 公 雄</p> <p>宗像市大字河東一三二二</p> <p>TEL (0940) ⑧ 三三〇三</p>
--	---	--	--



### 宗像大社中津宮(筑前大島)

## 七夕祭厳粛に斎行さる

— 境内ではゆかた姿の老若男女の七夕踊りで賑わう —



いかなれば  
とだそめけむ天の川  
あふせにわたす  
かささぎのはし  
この歌は、天の川に架る  
「かささぎ橋」を渡った処  
にある歌碑に刻まれている  
昭和十六年に当宮に参拝  
された、武田祐吉文学博士  
(故人) が境内に立てられ、  
神聖さのみせられ、日本の  
七夕信仰はここに始まる。  
「織女社」「牽牛社」「  
天の川」「かささぎ橋」を  
読まれた歌である。  
恒例の中津宮七夕祭が、  
去る八月七日午後八時から  
全村あけて、宗像大社中津  
宮(筑前大島に鎮座)境内  
で、厳粛盛大に斎行され  
た。  
この七夕祭は、中津宮参  
道の左側に清い水の流れる  
小川がある。この小川を古  
来より「天の川」と呼び、  
架かっている石橋を「かさ  
さぎ橋」と伝えられてきて  
いる。  
この橋を渡ると、小高き  
処に「織女社」が祀られて  
ある小さな石祠があり、天  
の川と参道をほさんで向い  
合うようにして「牽牛社」  
が祀られている小さな石祠  
がある。古来より「七夕祭  
り」の「七夕踊り」が村あ  
げで、今に伝承されてきて  
いる。その源には地理的条  
件と歴史があるからであ  
る。  
又、この七夕祭りにちな  
んで、小・中学生による中  
津宮七夕舞臺大会が毎年七  
月中旬に大島に於いて開催  
され、本年も第二十八回大  
会が七月二十二日に開催さ  
れた。  
本年も定刻前に、境内に  
特設された提燈に灯がとも  
ると共に三々五々ゆかた  
姿の老若男女が参集して来  
た。祭典終了後境内では七  
夕踊りが夜半まで賑わって  
いた。

## 夏の交通安全運転の 呼びかけを行う!

— お盆休みを利用して帰省する  
運転手並同乗者を対称に —



炎天の続くたる八月十二・十三日の両日共に、午前町、若宮古賀のはば中間十時から約二時間、九州(地点)に於いて、フクニチ自動車道下り車線の古賀サ・新聞社主催により、第一〇

回交通安全サービスク夏の交通安全運動キャンペーンが行われた。

このサービスク運動は、お盆休みを利用して帰省して来る運転手並同乗者を対称に、長旅の疲れをいやしてもらうこと、安全運転の再確認、シートベルトの着用等を目的として実施して来ている。

両日共、休憩や食事を終えて、このパーキングエリアを出て行くこととする車輛を興奮高速道路交通安全警察八幡分駐隊員の誘導により一時停車させられ、「シートベルト着用」の指導に「おはようございます。お疲れさまです。安全運転をして下さい」と宗像大社の巫女さんから交通安全の「肌守り」と「ステッカー」を授けられ、また、キャンベングールからは一握の「キャンデー」と「冷たいおしぼり」が手渡されて、運転者や同乗者等も思わず「ニコニコ」としていた。  
当日、日本自動車連盟九

### 新 人 紹 介

## 中津宮の巫女になって



高校を卒業して、巫女になるなんて、正直にいって、自分自身思っていました。なぜなら、私なんか、なれるわけないとおさらめていました。巫女という仕事は、どんな事をするのか、全然わからないし、とまどうばかりでした。もう、入社して二ヶ月半が過ぎようとしています。

### 第十二回 宗像大社献詠短歌 大会開催要項

昭和四十六年に斎行された、「宗像大社遷宮・奉祝大祭」を記念して開催されている宗像大社献詠短歌大会は、今年で第十二回を迎えることになりました。本大会も年々盛盛となり、県内はもとより、全国各地より参加者があり、作品も優秀なものが多く、新界に於いても注目を集める大会となって来ました。本年も左記要項に依り開催されますので広く御参加下さいますよう御案内申し上げます。

【要 項】

- 一、期 日 昭和五十八年十一月十三日(日曜日) 午前十時開始
- 一、会 場 宗像大社清明殿
- 一、大会次第
  - イ、開会 ロ、会長挨拶 ハ、講演
  - ニ、選者紹介 ホ、選考方法説明
  - ヘ、相互評判 ト、入選歌発表並に表彰式 チ、閉会
- ◎募集要項◎
  - 一、〆切期日 昭和五十八年九月五日(当日消印有効)
  - 二、詠 草 一人一首、未発表のものに限る
  - 三、書 式 原稿用紙に楷書で明記、住所氏名付記の事
  - 四、選 者 現在依頼中(四名)
  - 五、会 費 七〇〇円(詠草送付の折、定額小替費又は切手に納入)
  - 六、表 彰 選者賞四名、互選賞八名、佳作入選十名
  - 七、その他 七〇〇円切手貼付の返送用封筒を詠草送付の折、同封願います(住所氏名記入の上)
  - 八、宛 先 〇八一—三三五 福岡県宗像郡玄海町田島 宗像大社社務所内 献詠短歌大会係 宛
- ※ 備 考
  - 一、当日は晴雨にかかわらず実施します
  - 二、昼食自弁、境内周辺に食堂、商店有り
  - 三、交通は国鉄赤間・東郷・福岡駅前より西鉄バス神湊線にて宗像大社前下車
  - 四、詳細問合せは左記へ御連絡願います  
TEL 〇九四〇六 ② 一三二— 四  
献詠短歌大会係まで

(但、午前九時より午後四時までに願います)

## 残暑御見舞申し上げます



宗像平和タクシー  
株式会社

代表取締役 塩川 弘 昭

宗像郡福岡町二七二八一—三

TEL (〇九四〇) ②〇〇四〇

福栄タクシー  
有限公司

代表 保 井 久

宗像郡福岡町二六三三

TEL (〇九四〇) ②〇三三三

美松タクシー  
有限公司

代表取締役 塩川 弘 昭

宗像郡津屋崎町新川端

TEL (〇九四〇) ②〇〇一五

有限会社  
大和印刷所

代表的 場 重 徳

宗 像 市 大 字 田 熊

TEL (〇九四〇) ②二〇二七



